

# 五分だけでも

家庭における御言葉と礼拝

：目次：

- ・第一章 神の民としてのアイデンティティ P 3
- ・第二章 親の使命 P 5
- ・第三章 良い習慣を身に着け、繰り返す P 9
- ・第四章 子ども達が礼拝を拒む場合 P 1 5
- ・第五章 歪んだ霊的教育となる場合 P 2 0

## 第一章 神の民としてのアイデンティティ

---

「私たちは私たちの肉体には一日三回できたての食事を与えるが、私たちの霊には一週間に一回冷めた食事を与える。私たちが霊的に弱々しいのはなぜだろう」  
スミス・ウィグルス

数年前のことですが、二人のマレー系シンガポール人の少年がわたしの家に一週間ほど滞在したことがありました。わたしの息子が属していたサッカースクールの関係で、サッカーのイベントのために来日したチームのホームスティ先として私達の家泊まってもらったのです。彼らはイスラム教徒で、豚肉を除いた料理を提供することになりました。14歳の少年らしく、食事の席にもスマホを持ち込むスマホ中毒で、なおかつ野菜には一切手を付けない偏食、明日には試合だというのに夜更かしするような、やんちゃな子たちでした。

最後の夜、わたしは彼らに福音を分かち合いました。「君たちの宗教を尊重しているけど、僕が信じていることを話してもいいかい？」と尋ねると、快く話を聞いてくれました。わたしは彼らに質問しました。「君たちにとって神（つまり、彼らがアラーと呼び、礼拝している神）は、大切な存在なのかい？」

すると、ふたりはうなずき、「そうだ、大切なお方だ」と答えたのです。

わたしが驚かされたのは、ほんとうに今どきの、だらしない生活を楽しむ少年たちが、イスラム教徒としての明確なアイデンティティを保持している点でした。

私達の子どもたちはどうでしょうか。「世界を創造し、支配しておられ、私達を贖ってくださった神の民である」という強いアイデンティティを持っているのでしょうか。社会のどこにいても、そのアイデンテ

ィティを失うことなく、むしろ人に伝えていく力を持っているでしょうか。

イスラム教徒は数々の行いによって、アイデンティティを保つ努力をしています。食事に対する禁忌、一日五回の祈り、金曜日にモスクに集まったの礼拝、一か月のラマダン（断食月）。もちろん、罪人である人間がまことの神ではなく、宗教の背後にいるサタンのほうに引き付けられるのはしょうがないことではあるでしょう。しかし、生活の中にある数々の戒律が何世代にも渡る信仰継承となっているのは事実なのです。まことの神を恐れない彼らでもそのようにしているのですから、私達は彼ら以上の努力と祈りをもって、子どもたちが神の民として生きていくように教え、導いていかなければなりません。

#### ・ I ペテロ 2 : 9

**しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の榮譽を、あなたがたが告げ知らせるためです。**

子どもたちが神を恐れる心を持ち、キリストに出会って新生し、主に従い続けるならば、日本のクリスチャン人口はすでに10%を軽く超えていたはずです。そのためにも、家庭において聖書の言葉が重んじられ、主を恐れる生活が貫かれ、礼拝がささげられていく必要があります。毎日々々の習慣によって神の民としてのアイデンティティを身につけさせ、キリストに出会うチャンスを与えていかなければなりません。

聖書が重んじられず、主が礼拝されることがない家庭は、強盗が外をうろついているのに窓とドアを全開にしている家のようなものです。

サタンは容易にそこに入り込み、家族を攻撃し始めるでしょう。そして子どもたちは御言葉ではなく、サタンの嘘と世の情報に飲み込まれていき、主をおそれ敬う心を失っていくでしょう。

家庭における御言葉の教育と礼拝。これは魂を獲得していくための宣教活動であり、健全で強力な教会を形成していくための牧会活動なのです。

この冊子を、「五分だけでも」と名付けたのは、今まで霊的教育を何もしていなかったとしたら、せめて一日五分からでも御言葉を聞き、主を礼拝する時間を持っていただきたいからです。実際には神の民としてのアイデンティティを獲得していくためには五分では足りないでしょう。しかし、どんなことであっても、「何もしないよりはまし」なのです。主を中心とした、主の栄光を表す家族を建て上げたいと願う家族に力が与えられ、主に従う素晴らしい子ども達が育ちますように。

## 第二章 親の使命

---

すべての父親は、子どもに信仰を引き継ぎ、その信仰は永遠に子どものものとならなければならないのです。わたしたちは、そのために生きるのです。そしてわたしたちは、そのために死ななければならないのです。

ステーヴン・J・ローソン

## ① 親に与えられた責任

「子どもの自由を奪って信仰を押し付けたくない」という理由で、自分の子どもに霊的な教育を施さない親がいるとしたら、その人は自身が本当に新生しているクリスチャンなのかどうか、自問してみる必要があるでしょう。もしその発言が本音だとするならば、彼は自分の子どもが地獄に落ちても構わないと思っているか、もしくは地獄そのものを信じていないかのどちらかだからです。

また、新生しているクリスチャンであっても、世の中の価値観に騙されているということもありえます。

聖書は、子どもの教育（これは霊的教育のみならず、すべての教育を含みます）の責任は、親にあると教えています。もちろん、祖父母をはじめとする親族、牧師、教会、学校、その他の社会の様々な助けが必要ですが、親以外の誰かに責任を取ってもらうことはできないのです。

### ・申命記6：4～9

聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

この言葉に従うのなら、わたしたちは365日、24時間を用いて神の存在、そして神の言葉である聖書、救い主であるイエス・キリストと福音を教えなければなりません。これは週に一回、教会で受けるだけでは間に合いません。毎日々々、親が導いていかなければ、罪人

である子ども達は容易に信仰から離れていきます。教会に熱心な親であったとしても（牧師であったとしても）子どもたちの霊的教育をおろそかにしたために、子どもたちが信仰を持っていない、というケースはかなり多く存在します。

## ② 誰のためか？

私達は行いによるのではなく、選びによって神に愛されているわけですから、私達が聖書を読んでも読まなくても、主は同じように私達を愛してくださっています。毎日家庭で礼拝をしてもしなくても、それは同様です。私達が御言葉に親しみ、主を礼拝する理由は、もちろん主に栄光を帰すためであるわけですが、根本的には私達自身のためなのです。

### ・マルコ 2 : 27

**安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。**

もちろん、時には礼拝ができない時や、聖書が読めない時もあるでしょう。そのことに罪悪感を持つ必要はありません。しかし、常に主を愛し、御言葉に従う人生を歩みたいと願うなら、主を思い、礼拝する時間を一日の中で取り分けることは非常に有益です。主の側からの愛は変わらなくても、私達の主への愛は簡単に冷めていくからです。会話が深い夫婦は離婚率が低いというデータからも分かる通り、私達はいつも主とのコミュニケーションを持つ必要があるのです。

イエスさまの地上での歩みを考えてみましょう。多くの人がイエスさまを求めて集まってきたため、時には食事をする暇もないほどだった、と聖書には書かれています。でも、イエスさまはその忙しさの中でも

父なる神さまと交わる時間を持ちました。

・マルコ 1 : 35

イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

イエスさまでさえ祈る時間が必要だったのですから、私達はもっと必要なのです。

### ③ 父親の役割

子どもの霊的教育に関しては、ぜひ父親が権威を持ち、指導にあってください。もちろんそれぞれ忙しい中にありますから、実際的には母親がこの役目を担うことが多いとは思いますが、夫として、父親として妻と子ども達の霊的状态に気を配っているだけで、妻の重荷はだいぶ軽減されるでしょう。また週に一度だけでも、父親が家族を集め、主を礼拝する時間を持つ習慣をつけてもいいでしょう。

時には家族を集めるのが困難に感じる状況や、精神状態の時もあるでしょう。疲れている時は特にそうでしょう。でも、主の助けを求めて勝利し、歯を食いしばりながらも号令をかけてください。妻と子ども達は従順に父親の導きに従うべきです。他にやることがあっても、父親の号令がかかったら、手を止めて集まるようにしましょう。

大切な事は、何をしているかではなく、妻と子ども達の霊的リーダーとしての責任感を持つということです。

父親自身の弱さにより、そのリーダーシップを信頼できない妻や子ども達も多くいる現実がありますが、そこで父親を裁き、責めることは主の御心ではありません。それでも、父親の存在を感謝してください。どんな弱さがあっても、そこに存在しているだけで、父親は祝福と守



りを家族にもたらしめているのです。そのように父親を敬い続けるならば、主は必ず家族全体を祝福してくださるでしょう。

父親がいない家庭もあるでしょう。それは確かに困難なことです、主はその状況もご存じです。そしてその家庭においては主ご自身が夫であり、父親であられるわけですから、母親には特別の主の助けと祝福があると信じましょう。

#### ④ 親は自分自身に問いかけてみましょう

- ・あなたは自分の子どもが天国に行くことを望んでいますか？ それとも、地獄に行くことを望んでいますか？
- ・あなたは自分の持っている信仰を子どもに伝え、子どもがその信仰を持ち続けて欲しいと思っていますか？ それとも、子どもは自分が良いと思うものを選べばいいと思っていますか？
- ・あなたにとって聖書は服従すべきものですか？ それとも、道徳や倫理の教科書のようなものですか？
- ・あなたの人生の最重要課題は何ですか？そして、子どもの人生の最重要課題は何だと思えますか？

### 第三章 良い習慣を身に着け、繰り返す

---

「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道だと思っています」 イチロー
---

教育というのはとても地味なものです。しかし、地味なことを繰り返すことなしに成長はありえません。素晴らしい奇跡を体験するのも悪いことではありませんが、毎日主を思い、主の言葉に触れ続けるほうがより有益です。この章では毎日のキリストの弟子づくりに役立つアイデアを分かち合います。これらのアイデアを生かすには、教育の基本のステップを必要とします。つまり、「最初是一緒に、次第に一人で」です。まずは親が一緒に行き、次第に子どもが一人で行っていくことができるように教えていきます。

### ・箴言 3 : 1

わが子よ、私の教えを忘れるな。心に私の命令を保つようにせよ。

### ① それぞれが聖書に親しむ

親はもちろんですが、子ども達が自分で聖書を読んでいくように教えていきます。字が読めるようになってきたら、自分の聖書を与えましょう。そして、起床後、就寝前などタイミングを決めて、その時に数節であっても聖書を読むように促し続けましょう。通読を終えたら、特別なプレゼント（しかも、それなりに値が張るもの）をあげる約束をしてもいいでしょう。

### ② 御言葉を覚える

子どもには素晴らしい記憶力が備わっています。生まれてから3～4年で日本語のネイティブスピーカーになることができる優れた言語能力を生かし、子ども達に聖書を暗記させましょう。最初は文字を見ながら、次には見ないで一節を何回も（何十回も）復唱させます。繰り返していくなら、いつのまにか何章も暗唱できるようになっているは

ずです。わたしの家庭では箴言を暗唱させています。子どもたちはそれぞれ、自分で指を折りながら、ぶつぶつと繰り返す習慣が身についています。文字が読めない幼い子どもたちも、親の後について復唱させるなら、それなりに御言葉を暗記できるようになっていきます。

・詩編 119: 11

私は、あなたのことばを心にたくわえます。あなたの前に罪あるものとならないために。

③ 親との聖書タイムを設ける

子どもと二人だけになり、一章の半分、もしくは一段落程度、一緒に聖書を読む時間を持ってみましょう。(小さい子は数節でもかまわないでしょう)。読んだ後、わからなかったことはあるか、心にとまった言葉はあるか、といった質問を投げかけてみましょう。親と一対一という特別感が大切です。かなり大きくなってきたら、教材を利用するのもよいでしょう。(週に一回、ほんの数分であっても、これはとても有益な時間です)

④ 家族全員での礼拝

できれば家族全員で集まり、主を思う時を持ちましょう。以下のような事を少しずつでも行ってみてください。

・賛美の歌を歌う

主をほめたたえる歌を歌いましょう。楽器があるなら、ぜひ楽器を用いてください。子供が小さいうちは、1曲か2曲ぐらいしか歌えないかもしれません。家族の状態によってはもっと長く歌うこともできるかもしれません。

## ・共に聖書を読む

声をそろえて、もしくは一節ずつ聖書を読みましょう。まだ字が読めない子どもは、短く区切って追い読みをさせましょう。創世記1章なら、

親：「初めに」（真似をさせて） 子：「初めに」

親：「神は」 子：「神は」

親：「天地を」 子：「天地を」

といった具合です。三歳から四歳になれば、もっと長く区切っても読むことができます。なかなか集中力が続かないうちは、三～四節を一緒に読み、その後は聖書の絵本などを読んでやるとよいでしょう。字が読める大きな子たちは、その間に自分で聖書を読むことができます。

## ・祈る

朝に家族が集まり、祈るとすれば、最適なのは「主の祈り」です。みんなで声を合わせて祈るのもいいですし、父親が代表して祈るのもよいでしょう。古い「天にまします……」で始まるタイプでも構わないかもしれませんが、子どもたちがより自然に理解できるわかりやすい言葉を用いるほうがよいでしょう。（しかしあえて古語の御言葉や歌や祈りの言葉を用いるのも、教育の一面としては有益でしょう）

わたしの家庭では朝の礼拝の際、わたしが「主の祈り」をモチーフにして祈ります。その時々で言葉が変わることもあります。特に経済的な必要がある時は、「必要な糧を与えてください」の時に、その必要のために祈りますし、どこかに出かける日ならば、「悪いものからお守りください」の時に、特別な守りを祈ります。しかし、基本的には毎日同じ言葉で祈ります。代わり映えしない祈りであっても問題ありませ

ん。主の前に出続け、主が「こう祈りなさい」と命じられた祈り続けるなら、そこに主の守りがあります。

また、子どもたちが属しているサッカークラブや、水泳教室に行く日は、コーチ、子ども達の救いのために祈るように決めています。もちろん兄弟姉妹の祝福、病の中にいる兄弟姉妹の癒しのためにも祈ります。信者ではない友人達の救いのためにも祈ります。国のリーダーである首相の祝福、天皇陛下の祝福も祈ります。

家族によっては悔い改めの時間を持つこともあります。それぞれがそれぞれへの罪を告白し、赦しあうのです。

#### ・祈りのための本や聖書のメッセージが書かれた本を読む

ちょっとしたメッセージと祈りの言葉がセットになったディボーションの本はたくさんあります。ほとんどの場合、それらは一ページごとに違うトピックになっているため、短い時間に用いやすいのです。

※これらを少しずつ行ったとしても、15分～20分程度で終わるはずです。大切な事は何分礼拝を続けたという時間ではなく、毎日のように家族で主を思い、主の前に出る習慣を持つことです。

#### ⑤ 子ども達に手を置いて祝福を祈る

⇒就寝前に

- ・主が豊かに祝福してくださるように。
- ・主と出会い、主の栄光を求めて生きていけるように。
- ・どんな場所においても恐れず、福音をのべ伝える人となれるように。
- ・寝ている間もサタンの攻撃から守られ、悪い夢から守られるように。

わたしの家庭では、この時に子ども達にほめる言葉をかけるようにしています。一日を振り返り、素敵な行動や態度、言葉をほめます。子ども達はにやにやと嬉しそうにその言葉を聞きます。また、親にとっても子ども達の存在をより肯定的な目線で見ることが出来るチャンスになっています。

#### ⇒出かける前に（子どもが一人で出かけていく場合）

- ・ 事故や災いから守られるように
  - ・ 出会う人たちを祝福できるように
  - ・ 罪深い影響から守られるように
- （特に未信者のコミュニティに出かける場合）

#### ・ 民数記 6 : 24

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

#### ⑥ 特別な日に特別な礼拝をする

わたしの家庭では、クリスマスの夜、夕食後に聖餐式をします。また、子どもが洗礼を受けた日など、特別な時を定めて、同様に聖餐式を行います。それぞれが悔い改めの時間を持ち、イエスさまの十字架を思っています。洗礼を受けている子も受けていない子も、共に聖餐にあずかります。その際、なぜだか「シェマー」（申命記 6 章のヘブライ語の歌）を絶叫するように歌うという変な習慣があります。

毎週日曜日の夜に集まって礼拝している家族もあります。その日に教会で語られたメッセージの感想を述べあったりすることができるのも、日曜日の夜ならではです。

#### ⑦ 夫婦で祈る

まずはお互いのために祈りましょう。伴侶が祝福され、サタンの攻撃から守られ、心がいつも平安であるように祈りましょう。これはほんの20秒、30秒のできる祈りです。そして、子どもたちのためにも祈りましょう。朝目覚めた時、寝る前など、生活のスタイルによって時間帯はそれぞれだと思いますが、できればタイミングを定め、その習慣を守り続けてみましょう。

#### 第四章 子どもたちが礼拝を拒む場合

---

おお、かけがえのない魂がわたしたちの周囲で滅び行き、暗黒と絶望の暗闇に押し流され、永遠に失われていくのを知って、なおなんの苦悩も感ぜず、涙も流さず苦痛も感じないとは！ なんとわたしたちの心は冷ややかなのでしょうか。

オズワルド・J・スミス

幼い子どもは親から与えられるものを素直に受け取るものですが、年齢を重ねていく中で、子ども達が御言葉を読むこと、また共に礼拝することを拒み始める時があります。その原因は様々ですが、主要なものをあげておきましょう。

##### ・新生していない

子ども達は小さいうちは御言葉を読み、礼拝することを自然に受け入

れますが、次第に神への態度を自分で選択していくようになっていきます。その中でキリストの救いを求め、新生した子どもは主との関係を喜び続けますが、罪人のまま生きている子どもたちは、汚れた霊のまま歩んでいますから、段々と御言葉と主の臨在を嫌がるようになります。新生は聖霊の御業であり、親は人の罪とキリストの救いについて教えることはできても、新生させることはできません。親は子どもの魂が主のものとなるため、切に祈る必要があります。

#### ・コリント I 2 : 14

生まれながらの人間は神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができません。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

しかし、新生した子であったとしても、御言葉に対する反応が鈍くなっていくこともあります。それらの原因は次のようなものが考えられます。

#### ・世を愛しすぎている

未信者の友人達との深いつながりは時として神の民としてのアイデンティティの形成を阻害するものになりえます。未信者の子ども達と一切関係を持つてはならないわけではありませんし、それは不自然なことでしょう。しかし、親よりも教会よりも、未信者の友人達との関係を喜ぶようになった場合、子ども達の内側には既に世を愛する心が育ってしまっていることがわかります。

また、インターネット、テレビ、ゲームなどを通じて、反聖書的なメッセージに触れ続けていたり、ネット上で出会う人達との関係にのめりこんだりすることも、世を愛する心を育ててしまいます。親は子ど



もの交友関係をチェックし、インターネットとメディアとの付き合い方を教えなければなりません。

ほとんどの場合、子ども達は親との関係で満たされないものを埋めるために他のものに欲望を向けていきます。しかし、親との関係が健全であったとしても、近代において世の力はますます強力になっていますので、親はしっかりと子どもの心を守らなければなりません。

#### ・ Iヨハネ 2 : 15

あなたがたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もし、誰かが世を愛しているなら、その人の内に御父への愛はありません。

#### ・ 親に対して心を閉ざし始めている

新生している子どもであっても、親に対して不信感を抱き、心を通わせることを避け始めると、親と共に主を礼拝する時間を嫌がるようになります。原因は親の偽善、子どもに対する愛情の欠如、しつけの欠如などです。多くの原因が親にあります。子どもの内側にある罪人の性質が、親という権威に反抗し、それが神への反抗へととなっているのも事実です。親の側での徹底的な悔い改め、そして生活態度と子どもへの態度を変える訓練が必要になります。そして聖霊なる主が子ども心に語ってくださるように祈るのです。

#### ・ マラキ 4 : 6

彼は父の心をその子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それはわたしが来て、この地を聖絶のものとして打ち滅ぼすことのないようにするためである。

#### ・ 親の愛情を求めている

また、新生している、いないに関わらず、発達のプロセスの中で親か

らの愛情が不十分になってしまい、親との関係に飢え乾いてる子どもが、あえて礼拝を拒んだり、御言葉に反抗したりする行動を繰り返すことがあります。これはそれでも親が自分を愛してくれるのかどうか、試している状態です。そのような心の渇きを感じた場合、礼拝と祈りだけでなく、普段の生活の中で、言葉や行動によって愛情を示し、子どもと共に過ごす時間を喜んであげる必要があります。

### ・甘やかしすぎている

子どもに規律を与えず、罪を懲らしめず、子どもの意志を尊重しすぎていると、子どもはより自分の罪人の性質のままに歩み始めます。親の権威を軽んじ、自分の意見と気分を主張し、礼拝するよりも自分のしたいことを選びたがるようになるでしょう。子どもの罪をしつけ、健全な規律の元に育てることは、御言葉を教える事と同じです。それは子どもの側というより、親の側の御言葉への従順です。

### ・箴言 19 : 18

望みのあるうちに、自分の子を懲らしめよ。

### ※おまけ：親が礼拝をしんどいと感じる場合

これは私自身の経験なのですが、子ども達を集め、礼拝の時間を持つことがなんだか煩わしく感じてしまう時期がありました。家族と共に主に心を開いて礼拝することがスムーズではないのです。教会では心から礼拝できるのに、という自己矛盾を抱えていました。

突き詰めて考えてみると、その感情は私自身が幼少期に家庭礼拝に対して持っていた感情と同じものでした。親にも神にも心を開いていな

かったためかもしれませんが、家庭礼拝がとても窮屈で、早くこの時間が終わればいいのに、と思っていたのです。親になっても、私は子どもの時の感情のままだったわけです。

今はもっと自由に家庭で礼拝することができるようになってきました。積極的に子ども達を集め礼拝をスタートさせるようになりました。おそらく、私が自分の親をもっと尊敬し、自然な関係を持つことができるようになってきた事とも関係があるかもしれません。私は癒される必要がありました。何度も何度も親を赦し、親を敬ってこなかったこと、心を閉ざしてきたことを悔い改め続けるプロセスは、確実に私を造り変えてくれました。また、妻がそばにいて、共に祈る時間を重ねていくことが、わたしの心にとって良い訓練となりました。

クリスチヤンの家庭に育ち、私と似たような思いを感じている方は、ぜひ親との関係を主に取り扱っていただくことをお勧めします。赦しと悔い改めのステップを通っていくなれば、主は確実に癒しを与えてくださるでしょう。また、弱さの中にあっても、逃げずに礼拝を続けてください。続けていくなら、主は必ず心を取り扱ってください。

#### ・ローマ 12 : 1

心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

## 第五章 歪んだ霊的教育となる場合

---

キリスト者は世のものではないが、この世にいる。そして、世と関係をもっている。いつでも気づくことは、聖書においてはこの両面が一体となっていることである。キリスト者は、その心、そのものの見方において、この世的であってはならないと言われている。しかし、だからといって、世から退却せよという意味では絶対はない。

C・H・スポルジョン

子どもに御言葉を教えるなら、親は御言葉を行う人でなければならず、親と子どもの関係もまた、御言葉に基づいたものでなければなりません。

### ・エペソ 6 : 4

父たちよ。自分の子どもを怒らせてはなりません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。

以下のような場合、子どもは信仰から離れるだけではなく、親に対する根強い不信感を長年持ち続ける可能性もあります。

### ① 偽善ファミリー

- ・親が教会では良い顔をしているが、家では冷たい。
- ・親が牧師や兄弟姉妹の悪口を子どもの前で言う。
- ・良いクリスチャンを演じているだけで、行いが伴わない。

親が真実にではなく、クリスチャンらしいパフォーマンスをしているだけの信仰者として歩む時、それは偽善と呼ばれます。

・マタイ 23 : 27

わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものだ。外側は美しく見えても、内側は死人の骨やあらゆる汚れでいっぱいだ。

親が偽善者としての歩みをやめない場合、子どもに深い霊的な傷を負わせるだけでなく、子どもに軽蔑されやすくなります。親を軽んじる視点を持った子どもは、両親を敬わない罪を犯していくこととなります。

② ダブルスタンダード・ファミリー

- ・親が世を愛し、人を恐れる生き方をしている。
- ・聖書だけでなく、様々な思想が家庭の中に入り乱れている。(世的な考え方、偶像礼拝、進化論、ヒューマニズム、先祖の価値観など)
- ・親が場によって顔を使い分けている(家庭、教会、職場、地域)。
- ・世の中の情報から守られていない。

ダブルスタンダードとは、二つの基準、もしくは価値観を同時に持っている状態です。物事を判断する時、人生の方向性を定める時、親は聖書の言葉を思いめぐらし、主の御心を尋ね求めて祈っているのでしょうか。それとも、自分の人生経験や、世的な価値観を重視してはいないのでしょうか。聖書に反する価値観が教会と家庭を虜にしようとしている現代社会において、聖書という一つの価値観によって子どもを教育するのは、ますます困難になっています。だからこそ、親は真摯に聖書に向き合い、生活の隅々まで、聖書の価値観をもって判断することが求められています。

ダブル・スタンダードの中で育った子どもは、「神さまが存在していることも分かってる。聖書も本当だと思う。でも、僕はその価値観で生きていくことはできない」と思います。なぜなら、この世の中で神に従い、聖書の価値観で生きていこうとすれば、確かに苦難が伴うからです。子どもに必要なのは、一つの土台、一つの価値観の上に築かれる人生です。

#### ・マタイ 7：24、25

ですから、わたしのこれらの言葉を聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。

### ※おまけ：学校の教育

多くの学校の教育は、聖書を土台にしていません。なので、子どもは学校では世の価値観を教えられ、家や教会では聖書の価値観を教えられることになり、その間で苦しむことがあります。親が努力して霊的教育をしてきたにも関わらず、ダブルスタンダードに陥っている子どもはかなりの数に上ります。一日のうちの多くの時間を世の価値観の中で生きているわけですから、それは当然なことかもしれません。親は子どもの言動、行動を注意深く観察し、世的な方向に向かっているのであれば、知恵を用いて論していく必要があります。しかし、それも強引にはできません。話し合い、子どもの心に向き合いながら、「でも、聖書にはこう書いてあるんだよ」と伝えていく必要があるのです。

### ③ カルト・ファミリー

- ・親が御言葉と礼拝を最優先にしようと努力しているが、同じように努力しない子どもを拒絶し、罰する。
- ・子どもの弱さを、「それは聖書を読んでいないせいだ」「祈りが足りないせいだ」と責める（弱さを認めてあげるステップを通らない）。
- ・子どもに問題があっても、聖書を読ませればいい、祈らせればいい、教会に連れていけばいいと思っている。

これは「カルト・ファミリー」と呼ぶべき状態です。教えている内容は聖書であり、創造主である神であり、イエス・キリストであったとしても、その教え方が子どもの心を見殺しにした、権威主義的な形になっているのです。

親は子どもに御言葉を教えるわけですが、その御言葉の中には、親が子どもの心を養い、育てることも同時に書かれています。霊的教育とは、子どものありのままを受け入れ、子どもの罪を諭し、しつけ、赦していくことも含みます。そのような人格的な触れ合いとしつけなしに権威的な霊的教育をしてしまうと、逆に子どもの霊を傷つける霊的な虐待を行うことになります。

#### ・ I ペテロ 5 : 3

割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となちなさい。

#### ④ ファンダメンタル・ファミリー

- ・極端な選民思想で子どもを教育し、信者ではない人達への嫌悪感を植え付ける。
- ・兄弟姉妹や教会を霊的にランク付けし、自分達は非常に霊的だが、ある人達は劣っており、見習ってはならないと教える。

- ・様々な宗教を攻撃の対象とする。
- ・偏った禁欲主義、律法主義で生活する。

ファンダメンタルとは原理主義の事で、本来は聖書に忠実に歩む人達を指す言葉ですが、欧米社会で「宗教的ファンダメンタリスト」と言えば、極端で融通が利かない、攻撃的な人達を意味します。「殺してはならない」という御言葉から中絶に反対し、中絶を行っている病院を攻撃したり、イスラム教を攻撃し、コーランを燃やすパフォーマンスを行ったりする人達です。つまり、自爆テロリストと同じような人種として扱われます。聖書に忠実であるという意味での原理主義ならば、そのような行動は聖書から考えておかしいとわかるはずなのですが、人間は愚かであるため、サタンの嘘に騙され、そのように極端な方向に進んでしまう人達もいるのです。

**コリント I 5 : 9、10**

私は前の手紙で、淫らな行いをする者たちと付き合わないようにと書きました。それは、この世の淫らな者、食欲な者、奪い取る者、偶像を拝む者と、いっさい付き合わないようにとという意味ではありません。そうだとしたら、この世から出ていかなければならないでしょう。

実は家庭における霊的教育においても、このような間違っただけの意味での原理主義的な傾向に陥ってしまうことがあります。聖書に従うならば偶像礼拝は徹底して避けるべきですが、偶像礼拝をしている人達を裁き、攻撃するべきではありません。私達は主に従うべきですが、様々な弱さゆえ、純粹に主に従いきれない人達も多くいます。そのような人達を受け入れることもまた、聖書が命じていることです。

**ローマ 14 : 1**



**信仰の弱い人を受け入れなさい。その考えを批判してはなりません。**

一方で聖書は教会の中で明らかな罪を犯し続ける人達を交わりから排除するように教えています。しかし、その罪は限定されており、しかもその排除する措置も、その人達を救うためであり、排除そのものが目的ではありません。

私達は神に選ばれた存在であり、その事実を子どもに教えていく必要があるのですが、それが極端になり、ある立場の人達を排除するような教育をしないように注意しなければなりません。

排他的な正義感の背後にあるのはプライドと怒りですが、神の正義と真理という強力な武器の背後に隠されているため、自分自身の怒りに気付くことが難しくなってしまうのです。

また、聖書が禁じていること以上の掟によって生活していく家庭もあります。もちろん、子どもを悪い影響から守るためにメディアや芸術を制限するの必要はありますが、それらがまるで汚らわしいもののように扱われ、極端な禁欲主義にはまると、子どもはとても息苦しい生活をするようになります。

### ・コロサイ 2 : 23

これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

このような家庭に育ち、親に反抗した場合、生活が逆ぶれし、不品行や貪欲、不摂生な生活に陥っていくことがあります。親自身も自分の状態に気付き、これではいけないと逆ぶれし、世的で怠惰な生活に陥っていくこともあります。

## ※歪みを修正するために

私達は皆何かしらの欠点を抱えており、健全な家庭を築こうと努力していても、いつの間に歪んでしまっていることが多々あります。それを修正する鍵は謙遜になることです。常に心を開いて聖書の言葉に諭されること、他の家族の方法や指針を学んでみることに、教会のリーダーや兄弟姉妹、家族や親族の忠告に耳を傾けることなどです。

謙遜であるならば、いくらでも修正できます。逆に言うならば、心をかたくなにするならどんどん不健全になってしまいます。やわらかい心を持ち、心と生活の変化を恐れないようにしましょう。

でも同時に、人の意見に振り回されてしまうのもまた問題です。常に御言葉と向き合い、主の前に出て祈り、今の最善は何かを求め続ける必要があります。

## 終わりに……。

---

聖書の命令は一日の内のわずかな時間だけではなく、24時間、365日、生涯をかけて守るべきものです。文字通り心を尽くし、力を尽くして主を愛し続けることが、わたしたちの存在意義であり、人生のすべてです。しかし、世はそれと反対の事を教えます。世の中で発信されているメッセージに耳を傾け続けるならば、神に逆らい、心を尽くし、力を尽くして自分を愛するようになっていくでしょう。それは罪人である私達の罪の本質であり、私達にとってもっとも聞き心地の良いメッセージなのです。

私達は子どもに真理を教えていかなければなりません。子ども達が滅びではなく、永遠の命の中に生きるために全力を尽くすこと、それが親に与えられた使命なのです。

しかし、私達は時に本質を見失ってしまうことがあります。「これをすれば信仰継承はうまくいく」と方法論を神格化してしまい、主の業を肉の業として行ってしまうこともあるでしょう。**方法論にしがみつかないようにしましょう。**子ども達が主と出会うのは私達の業ではなく、**聖霊の御業**だからです。だからこそ、子ども達が**聖霊に触れられるチャンス**を多く増やしてあげましょう。

ですから、タイトルの「五分だけでも」を「五分だけとは言わずに」に変え、この冊子の最後の言葉としたいと思います。

### 「五分だけでも～家庭における御言葉と礼拝～」

発行：2020年4月

製作：下諏訪キリスト教会

文責：清野 基

sc.live.service@gmail.com 0266-27-3862

<http://shimosuwachurch.net/>